

低燃費排水装置を拡販

近況



高性能機械の導入で建設現場の働き方も変わってきた。「積極的に取り入れ、安全・低コスト・高品質を追求していく」と語る。

「たい」と力を込める。

災害によってできた天然ダムの排水を主眼に、約5年かけて開発。最初にポンプを稼働させて排水し、ホース内が水で満たされた状態でポンプの電源を切ると、サイホンの原理で水をくみ上げ続ける。低燃費、低コストで送水が可能で、一般工事現場で幅広く活用できる。「今後はレンタルや販売もしていきたい」と力を込める。

水中ポンプとサイホンを組み合わせた排水装置「ハイブリッド・山辰サイフォン」を開発した総合建設業山辰組(揖斐郡大野町稲畑)の馬淵和三社長(66)。「2年前に実用化し、関係機関から高い評価を頂いている」